

# 八ヶ岳通信

## ■ 文化財係

### ○日本遺産認定「星降る中部高地の縄文世界」 平成 30 年 5 月 24 日認定

長野県 8 市町村と山梨県 6 市が合同で申請した「星降る中部高地の縄文世界 - 数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅 -」が日本遺産 (Japan Heritage) に認定されました。「星降る」とは、我々の祖先が夜空に瞬く無数の星を見上げ、黒曜石のカケラを大地に積もった星のカケラと信じて生まれた、星糞や星ヶ塔など黒曜石鉱山のある地名に由来しています。日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。茅野市は、日本列島で最も縄文文化が隆盛した地域であり、数多くの縄文遺産を有し、縄文を活かしたまちづくり・人づくりを進めていますが、この度の日本遺産認定により、市域を越え広域で協働し、この取組をなお一層、拡大していくことになります。



- 茅野市の日本遺産構成文化財
- ・国宝「土偶」(縄文のビーナス)
  - ・国宝「土偶」(仮面の女神)
  - ・国特別史跡 尖石遺跡
  - ・国史跡 上之段遺跡
  - ・国史跡 駒形遺跡
  - ・中ツ原遺跡
  - ・県史跡 池之平御座岩遺跡
  - ・八ヶ岳の黒曜石原産地
  - ・蓼科山・八ヶ岳

### ○長野県宝指定「信州の特色ある縄文土器」 平成 30 年 9 月 27 日指定

長野県教育委員会は「信州の特色ある縄文土器」として 158 点を県宝に指定しました。158 点のうち、47 点が茅野市のもので、市町村単位で最も多く、約 1/3 を占めています。茅野市が最も数が多いのは、国特別

史跡尖石遺跡をはじめとする数多くの遺跡の発掘調査の成果といえます。縄文土器の選定にあたっては、顔面装飾や動物装飾のある土器が主眼に置かれ、顔面付土器、土偶付土器、蛇体把手付土器、絵画文土器、動物装飾付土器、異形土器などに分類されています。



長野県宝  
蛇体把手付深鉢(尖石遺跡)

### ○茅野市天然記念物指定「下菅沢の祖靈桜」 平成 30 年 10 月 24 日指定

「下菅沢の祖靈桜」は、木川姓が半数を占める地域の守り神として、墓地の中央に立っています。武田信玄の軍用道路が近くを通り、戦いの途中で息絶えた武将が葬られ、後にふるさと甲斐のシダレザクラが植えられたとの伝承が地元には残されています。このシダレザクラは市内最大のサクラであり、長野県内でも有数のサクラの巨木です。樹高約 15m、枝開張約 19m、胸高幹周 522 cmを誇る諏訪地域を代表する美木であり、樹齢は推定 400 年以上です。樹形も優れ、周囲の農地や背景の八ヶ岳ともあいまって優れた景観を示しています。



## 茅野市文化芸術推進事業

茅野市内のミュージアムは、その文化資源を活用しながらそれぞれに活発な運営をしていますが、個別の活動となりがちです。こうした状況を解決するため、ミュージアムと関係機関の連携強化により、文化資源を効果的に活用し、地域の観光振興および地域の活性化に資することを目的とする、茅野市文化芸術推進事業実行委員会が組織されました。1年目となる本年度は、設置者が異なる様々な分野の5館（茅野市尖石縄文考古館、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市神長官守矢史料館、茅野市美術館、京都造形芸術大学附属康耀堂美術館）と関係機関（茅野市中央公民館、茅野市市民活動センター「ゆいわーく茅野」、一般社団法人たちの観光まちづくり推進機構、茅野市および茅野市教育委員会の関係部署など）が連携して茅野市文化芸術推進事業を行い、茅野市の玄関口とも言えるJR茅野駅に隣接する文化複合施設・茅野市民館内にある茅野市美術館を事業展開の事務局館としました。

本年度は、同事業の連携事業として、①「ちのミュージアム・ピクニック」（11月、全2回）、②「ちのを編む みんなのサロン」（2～3月、全3回）を行いました。

### ①ちのミュージアム・ピクニック

全2回で、それぞれテーマを設定し、ミュージアムとおすすめスポットをつないでバスでめぐり、各館学芸員や、一般社団法人たちの観光まちづくり推進機構のガイドが案内をしました。全2回の内容は下記のとおりです。

#### その1 「自然と諏訪の信仰」

●ルート 茅野市八ヶ岳総合博物館→諏訪大社上社前宮→茅野市神長官守矢史料館→高過庵・低過庵・空飛ぶ泥舟（藤森照信設計の茶室）→茅野市美術館

●内容 勇壮な御柱祭でも知られ、諏訪地域に深く根差している諏訪大社。その特徴は、古代から続く自然への畏敬の思いを今も色濃く残していること。長い年月に育まれた諏訪地域の「自然を大切にし感謝しながら、自然とともに生きる姿勢」を学び、茅野出身の藤森照信氏の自然と調和する建築を通じて、現代にも受け継がれている諏訪のDNAを感じる旅です。



茅野市美術館

#### その2 「縄文と八ヶ岳の恵み」

●ルート 御射鹿池→京都造形芸術大学附属康耀堂美術館→茅野市尖石縄文考古館→与助尾根遺跡（縄文時代の復元住居）→茅野市神長官守矢史

料館→カントリー  
レストラン 匠亭  
(信州ジビエ)

●内容 2つの國  
宝土偶を生んだ  
茅野の縄文時代  
は、どんなもの  
だったのでしょうか



カントリー・レストラン 匠亭

か。当時この地が大きく栄えた理由、それには八ヶ岳の生んだ自然の恵みが欠かせません。多くの実をつける豊富な木々、清らかな水、そして大切な食料となった鹿をはじめとする動物たち。それらは5000年以上経った今でも、私たちに恵みをもたらしてくれています。縄文時代の八ヶ岳に思いを馳せながら、その恵みを味わう旅です。

「自然と諏訪の信仰」「縄文と八ヶ岳の恵み」という2つのテーマを設定し、ミュージアムとおすすめスポットをつなぎながら、テーマの持つ物語を参加者の皆さんに感じていただけるプログラムづくりを意識しました。茅野ならではの魅力を感じる“はじめの一歩”になったのではないかと思います。

#### ②ちのを編む みんなのサロン

茅野の魅力を見つけてつなぐ「ちのを編む」では、地元の方々の取組を直接うかがい、新たな視点で知ってみる「みんなのサロン」を全3回で開催しました。

その1は「天然寒天って何？ 現場に行こう！」。



イリセン寒天工場の干し場

寒天製造工場や干し場を見学しました。

その2は「どうやってるの？ 縄文遺跡の発掘調査」。調査がどのように行われているか、市民の作業員・補助員の皆さんから体験談をうかがいました。

その3は「食」でつなごう！ 地域のくらし。市内で活動する地区ボランティアの皆さんから、食にまつわる活動についてお話をうかがい、郷土食の試食も行いました。

全3回を通して、茅野の宝ものを再発見し、魅力をつないでいく、そのような機会となることを目指しました。

今後も引き続き、ミュージアムと関係機関の連携により、市民が地域にある多様な文化資源を活かしながら、地域のアイデンティティを発信できるような環境づくりを目標に進めていきたいです。

平成 30 年(2018 年)度は、八ヶ岳総合博物館は開館 30 周年を迎え、様々な記念行事を行いました。その中の特別展・企画展をご紹介します。

○特別展 「開山 小尾権三郎

～上古田を中心とする信仰と甲斐駒ヶ岳～」

平成 30 年は、甲斐駒ヶ岳開山である小尾権三郎が文政 2 年(1819 年)に没してから、200 年にあたります。

小尾権三郎は寛政 8 年(1796 年)に、現在の茅野市豊平上古田区で、御嶽行者である小尾今右衛門を父として生まれました。下古田村(現豊平下古田)の行者である蓼科山満副院の弟子となり、行者となつた権三郎は、「鎌弘行者」と名乗りました。

権三郎は、靈夢により甲斐駒ヶ岳の開山を志し、文化 10 年(1813 年)に甲斐国巨摩郡横手村の駒ヶ岳の元締めだった山田孫四郎久儀宅を訪れ、入山の許可を求めましたが、あまりにも若かつたために許可されませんでした。その後、権三郎は修業を積み、文化 13 年(1816 年)に入山が許可され、同年 6 月に登頂に成功しました。文化 14 年(1817 年)の「定書」に、「三寶院御門 延命護行菩薩 鎌弘法印」とあるので、京都の醍醐寺三宝院とこの時すでに関係があり、この年の 7 月 16 日に醍醐寺三宝院に属する修驗道当山派を支配する鳳閣寺から、3 通の免許状を得ています。開山から 3 年後の文政 2 年(1819 年)に、権三郎は、理由は不明ですが、24 歳の若さでこの世を去りました。上古田を見下ろす小高い場所に葬られ、後にその場所に碑が建てられています。

権三郎が没する時に、開山の協力者である山田孫四郎に遺品を寄贈するように遺言し、天保 2 年(1831 年)の十三回忌の時に、父 小尾今右衛門から山田家へ遺品 9 点が贈られました。この時の譲状が山田家に、請取覚が上古田区に遺されています。特別展では、山田家で所蔵する権三郎の遺品、小尾家の子孫の家に伝えられてきた権三郎の遺品(現在は上古田区所蔵)、近代の甲斐駒ヶ岳信仰の中心となった神道皇祖駒ヶ岳教、上古田区の駒ヶ岳開山威力不動尊總元講社についての展示を行いました。今回の特別展で、山田家に遺品が譲られて以来、おそらく初めて地元に戻ってきたのではないかと思われます。また、昭和 5 年(1930 年)に



小尾権三郎自画像  
(上古田区蔵)

作成された目録では確認されていましたが、権三郎の自筆の掛け軸などが再発見されました。

○企画展 「茅野市 60 年 博物館 30 年」

平成 30 年度は、博物館 30 周年であるとともに、茅野市制 60 周年です。これを記念し、市制施行以前からの茅野の風景の写真を展示しました。大正時代から現在まで、茅野市が大きく変貌したことが写真によってわかります。



大正時代の茅野駅と周辺(矢崎俊作氏 蔵)



昭和 33 年頃の本町商店街

なお、特別展・企画展の図録を販売しております。特別展・企画展は終了しましたが、その内容は、下記の図録でご覧になることができます。八ヶ岳総合博物館で販売しておりますので、御来館の際には、ぜひ、ご購入ください。

『企画展 開山 小尾権三郎 ～上古田を中心とする信仰と甲斐駒ヶ岳～』 図録 600 円

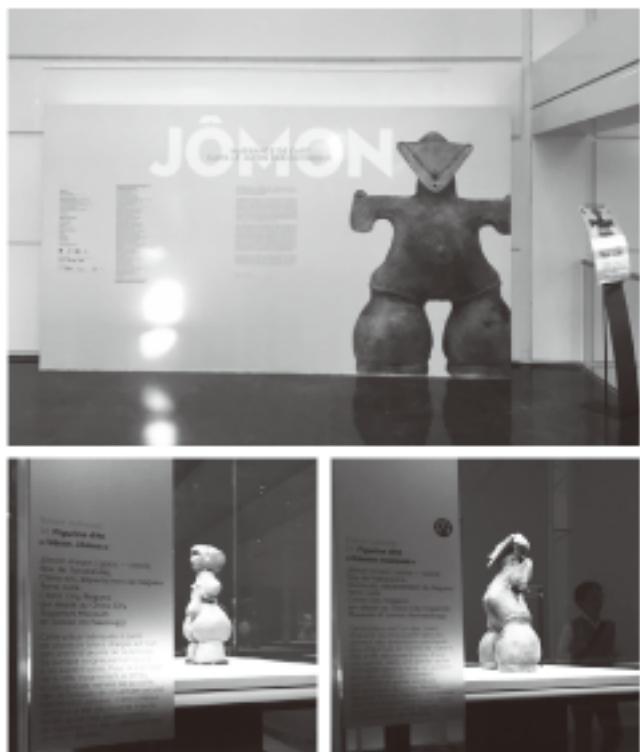
写真集「写真で見るむかしの茅野市 八ヶ岳総合博物館 30 年のあゆみ」 2,500 円

## ■尖石縄文考古館

### 国宝「土偶」が2つの「縄文」展へ

国宝「土偶」（縄文のビーナス、仮面の女神）が、東京国立博物館「縄文1万年の美の鼓動」（会期：平成30年7月3日～9月2日）とパリ日本文化会館「縄文日本における美の誕生」（会期：平成30年10月17日～12月8日）に出展されました。東京国立博物館での展示開始が7月31日からで、4か月以上にわたる長期の出張となりましたが、東京国立博物館でも、パリ日本文化会館でも、多くの来館者を魅了しました。

パリの展示では、ポスター、チラシ、図録表紙に「仮面の女神」が使われ、会場では「これがポスターの土偶だ」と見入る方が続出しただけでなく、20年ぶりとなる「縄文のビーナス」との再会を報じるメディア、完成度の高い造形に「子どもへの思いは今も昔も変わらない、ということが強烈に伝わる」と感じる方も多かったようです。38日間の会期で約15,000人の来館者が縄文を堪能しました。



上：会場入り口後に掲載されたバナー  
下：国宝「土偶」2体の展示のようす

## ■神長官守矢史料館

### 神長官がみた幕末の京都

慶応4・明治元（1868）年から明治2年にかけて、神仏分離に伴い、神宮寺の僧侶の処遇について、神祇官役所との交渉で、神長官守矢実顕をはじめとして、諫訪上下社の代表者数人で、京都へ出張しました。この時の状況を、守矢実顕が『西京日誌』に記しています。

12月22日に、明治天皇が東京から京都へ帰着しました。このことを聞いた守矢実顕等5人は、宿の五兵衛を頼んで、道筋の見物場所に案内してもらい見物しました。この時、長州藩を先頭に軍勢が続き、天皇が乗る御鳳輦を見物し、実顕はこの絵を書き留めています。

横井小楠暗殺事件で守矢実顕が聞いた話では、明治2年1月5日に福井藩の参与掛 横井半四郎（小楠1809-1868）が、「寺町通り丸太町下ル」（京都府中京区）で殺害されました。横井小楠は大奸物であるとして、殺害されましたが、幕府の大物、福井藩主 松平慶永（春嶽）の参与掛であったため、殺人については厳しく取調べが行われ、山城国（京都府）中の出口の出入りを差し留めたといいます。横井小楠の殺害状況は、襲われて駕籠の中から逃げようとしたところを一太刀浴びせられ、左の肩から右の横腹まで切られて2つになったとのことです。明治維新になっても暗殺が横行していたことがわかります。

実顕は、この事件について、かなり興味があったようで、人相書の写しも遺しています。

滞在中、神祇官との交渉の合間に、上京した仲間たちと京都を見物していたことがわかる日誌です。



『西京日誌』明治元（1868）年12月22日条

茅野市の博物館・文化財だより 八ヶ岳通信 No.37 発行年月日 平成31年3月31日

編集・発行 文化財課 文化財係 〒391-0213 茅野市豊平4734-132 TEL(0266)76-2386  
茅野市美術館 〒391-0002 茅野市塚原1-1-1 TEL(0266)82-8222  
茅野市八ヶ岳総合博物館 〒391-0213 茅野市豊平6983番地 TEL(0266)73-0300  
茅野市尖石縄文考古館 〒391-0213 茅野市豊平4734-132 TEL(0266)76-2270  
茅野市神長官守矢史料館 〒391-0013 茅野市宮川389番地の1 TEL(0266)73-7567